

# 『平和』をともに

聖句「キリストは  
わたしたちの平和であります」  
—エフェソ2:14

# 部会だより

キリスト教  
保育連盟  
神奈川部会

2016年8月23日  
第130号



## 「御心を追い求めて」

認定こども園 捜真幼稚園

園長 寺田 千栄

私の勤めている認定こども園 捜真幼稚園は、横浜市神奈川区の閑静な住宅地の中にあります。旧設置者である教会と同じ敷地にあり、祈りをもって建てられ、祈りによって今まで歩んでまいりました。はじめは二年保育の幼稚園でしたが、それが三年保育になり、様々な子育て支援をはじめ、預かり保育を始め、横浜市平日型預かり保育の特例で0、1、2歳児を預かるようになり、それから数年で今の形である幼保連携型認定こども園となりました。少しずつ変化してきましたがその渦中にいる時は本当に大変で、何度も音を上げそうになりました。振り返ってみる

◆ 聖句 ◆

「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。」  
(箴言3章5～6節)

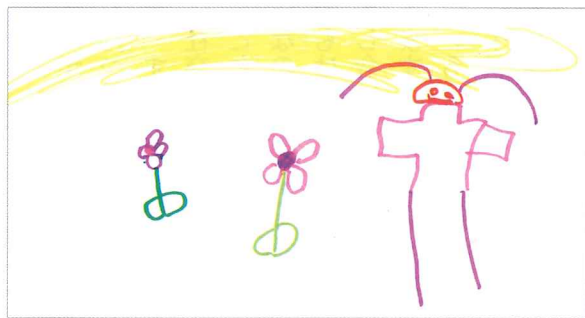
と、形が変わっていくために、私たちが動く前から神様が必要なものをすでに与えてくださっていたことがほとんどでした。ですから、問題にぶつかったとき、すでに解決する道が備わっていたように思います。形が変わっていくことはとても不安ですし、新しい試みのため、今までにない失敗もあります。しかし神様はいつもすでに恵みを用意していただくさつていたので、前に進むことができました。逆にどんなに良い試みに思っても、神様の御心でないときは前に進めないことも経験してきました。この方に信頼して歩めることが私たちの最大の強みです。

二年前の運動会での出来事です。保護者やお客様の参加賞として飲み物を用意しているのですが、この年はお客様が多くて参加賞を配つていけるうちに、「これは足りないかもしれない」と思いました。その時、一週間前に先生たちで飲んでくださいと、差し入れていただいたお茶のペットボトルがあることを思い出したのです。急いで、教員室に駆け込み、お茶を持ってきました。ドキドキしながら配っていると、なんとピツタリの数となり、皆さんに配ることができました。これは単なる一例にすぎませんが、このように神様がいろいろな場面で私たちにわかるように働いてくださることがよくあります。そして面白いことに神様の恵みは必

要な分ピツタリなのです。少なくとも多くありません。そしてタイミンもピツタリなのです。

保育をしても何度も失敗を繰り返し、こうすればよかった、もつとこうなればいいのにと思うことが多くありますが、そんな時、私たちの足りないところを神様がピツタリ補ってくださいることを信じて祈りましょう。祈っていないと、この恵みがわからないからです。

「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」Ⅱコリント十二・九と神様は語りかけてくださいます。神様の前に弱さを告白して、ピツタリの恵みの中で、御心を追い求めていきましょう。



イラスト：「のはら」4歳女児

# テーマ

## 遠足 園外保育



### 春の親子遠足

ハリス記念鎌倉幼稚園

教諭 小湊春江

春の遠足は新入園児が友だちと親しみ、保護者の親睦を目的として、全園児親子で新林公園（藤沢へ出掛けます。新緑の風に包まれて礼拝を捧げた後、学年に分かれます。

年少組は、先ず広い芝生でラーム体操。始めは恥ずかしがって動きも小さいのですが、徐々に歌を口ずさみなが大胆になっていきます。

その後はクラス対抗フープリレー。「がんばるぞー」とハイタッチ。お母さんと一緒のリレーが嬉しくて、笑み満面の子どもや、「お母さん、もっと早く走って」と本気になる子どもなど様々です。

年中組は古民家とその周辺を散策します。江戸時代の生活の様子にびっくり。土間にある竈や水瓶、お座

敷の囲炉裏や家具などを不思議そうに見つめていました。散策の途中では「ねえ、あの鳥なあに？」「あつ、見て飛んだ！」とお母さんに伝えます。そのうち、あちらこちらで、「あの色、珍しいね。」「何の鳥だろうね。」と子どもたち同士の会話も弾みます。

年長組は約一・五キロの散策路を親子で最後まで歩くことをねらいとします。誰かが「つかれた〜」ともらすと、上から「ヤッホー！がんばって〜」との声。展望台では海や富士山を眺め、ほっと一息。アップダウンの連続で、歩き切った達成感は大きな自信につながります。

午後は『あくしゅでこんにちば』の歌に合わせて、全員で交流を楽しみました。年長組は短縄取りでクラス対抗、親子対抗で競い合い、パワーを発揮。応援の音が響きます。

帰る頃には「友だち百人」できたでしょう！

### 非認知能力

ドレーパー記念幼稚園

園長 佐竹和平

最近研修などで聞くことが増えたのでご存知の方も多いかと思います。知能、知識などの「認知能力」に対して、思いやり、協調性、自制心、自尊心、やり抜く力や社交性などの能力、「非認知能力」を幼児期に育むことの必要性が言われるようになっていきます。私はこの話を聞いた時に宗教という幼児教育における基盤を持つているキリスト教主義の幼児施設こそが力を発揮してきたことなのではないかと思いました。多くの施設で日常の子どもたちの生活の中に取り入れられている礼拝、説教、聖書の言葉、讃美歌、お祈りなどが「非認知能力」を丁寧に育んできたと思ったからです。

テーマとなります遠足や園外保育は普段の園内の生活を踏まえて行われるもの。園外はいつもと違うことがたくさんあります。道を歩けば車を通るので危険も伴います。年長のお兄さん・お姉さん達が、年少の手を引いて歩きます（おもしろ

り）。年長さんは年長児としての自覚を持って車道側を歩きます（自尊心）。すれ違う人が挨拶をしてきます（社交性）。道中、自分の興味のあることは出てきますが、みんなと一緒になので我慢します（自制心）。いつもは歩かないような長い距離を励まし合いながら目的地を目指して歩きます（やり抜く力）。公園で遊んでいるとほかの施設の子ども、小さい子どももいるので譲り合って遊ぶこともします（協調性）。

このようにいつもと違う環境になると園内での生活に基づく子どもたちの姿、成長が確かにみられるのが遠足や園外保育の時であり、保育者は丁寧にこの時を過ごす必要があるようです。



## 公園へ、

### 行きますしよう♪

聖鳩幼稚園

主任 望月君佳

「自然に触れあう。」子どもたちに沢山経験させてあげたいといつも願っているのですが、幼稚園の限られた環境の中ではなかなか思う通りにいかないこともあります。

年に数回ある園外保育では、近隣の公園まで歩いて遊びに行きます。幼稚園から出ることは、子どもたちにとって小さな冒険の始まりです。少しの緊張感と、大きな期待。すれ違う大人の人や、散歩中の犬との出会い。横断歩道では、車が来ないかな?と、ドキドキしながら渡ります。片道十分程度の道のりで、子どもたちは色々な経験を考えます。楽しい気持ちになって口から出てきたり、歩道の小さな段差が気になって足が止まったり。

目的地まで安全に引率しなければと思うと、足並みを揃えてくれないことをつい注意してしましますが、後で反省します。子どもたちの視線まで、腰を下ろして同じ世界をのぞいてみると、宝物があらちちらに

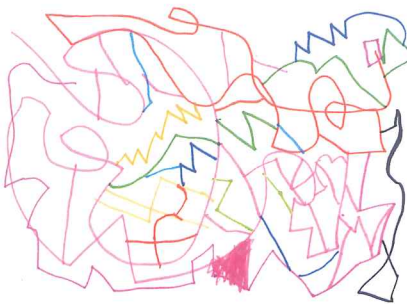
落ちていることに気づかれます。

さあ、公園に到着。広々とした環境にみんな、一斉に走り出します。全速力で走って風を感じたり、幼稚園と違う遊具に集まって順番待ちをしたり。

園児以外の遊びに来ていた子どもたちとの出会いや関わりも見え、園内だけでは見ることができない子どもたちの姿を沢山見ることができました。

そしてまた宝物を探しながら園へ戻ってきて、園外保育が終わります。

「自然に触れあう」経験を！と意気込んでいたが、何でも楽しんで、どんな物もおもちゃにしてしまい、全身で遊ぶ子どもたち。園外保育とは、普段とは違う環境の中で、子どもたちにとっても、保育者にとっても、新しい発見と再確認のできる貴重な一日なのだなぁと思いました。



## 親子で楽しむ遠足

白百合幼児学園

主任 石森満喜子

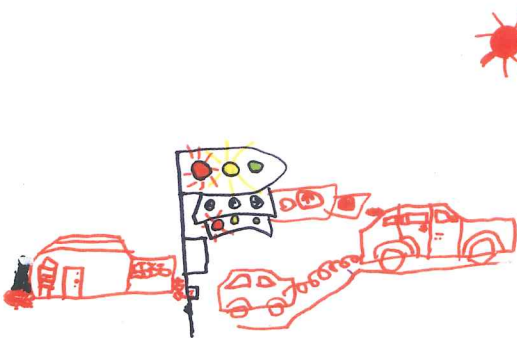
我が園では春（五月）秋（十月）の年二回、親子遠足を楽しんでいきます。春は動物園、水族館、科学館の三つを順番に行き先としています。

これは全園児参加の遠足です。家族又は弟妹も一緒に楽しめるように園から電車一本で行くことができる場所を選んでいきます。入園間もない時期の春遠足は、園児家族間の親睦が目的ともなります。お弁当の時間を利用して、讚美やゲームをしながらクラスを越えた交わりの時を持ちます。園児達の間で、いつの間にか始まった、おやつ交換会も楽しみの一つのようなのです。食後それぞれが、おやつを手にし、お友達を訪ね「はい、どうぞ」「ありがとう」のやりとりの中、楽しい交流が生まれます。

秋は年長組親子で芋掘り遠足に出かけます。長年お世話になっている三浦海岸の農園を訪れ親子で、さつま芋掘りを体験します。駅から歩いて三十分程の畑まで、どんぐりや、まつぼっくりを拾ったり、鮮やかに

色づいたみかんを眺めながら、のんびりと秋の散策を楽しみます。細い山道を下ると広々と広がる畑に、子ども達の歓声があがります。掘ったお芋は留守番の年少、年中児へのお土産としても持ち帰ります。蒸し芋大学芋、お芋の味噌汁となり、給食のメニューに加えられます。神さまが与えてくださる恵みを覚える収穫感謝礼拝には、各家庭から持ち寄った果物と共に、お芋が並べられます。そして、自分達の手で収穫した喜びを味わっています。

親子で楽しむ遠足は、親子共々心温まる思い出として刻まれているようです。



## 思いを新たに

田園江田幼稚園 安藤 尚子

四月十三日、午前中の保育を終え、少し緊張しながら会場である野毛山幼稚園へ向かいました。受付の先生に笑顔で迎えられほっとして席に着くと、多くの新任の方や先生方がいらつしやいました。礼拝で武田先生のご自身の証しである力強いメッセージを受け、どんな時にも主が共にいてくださることを信じ祈り続けることの大切さを心に刻み、大変力づけられました。私は娘が卒園した田園江田幼稚園に九年非常勤で勤め、今年度より正規職員としての勤務となりました。仕事から離れていた時期も長いため、三人の子育てをしてきたこれまでの歩みがこれから保育に生かせるのだろうか、私でいいのだろうか、と悩んだこともありました。しかし武田先生のお話にあった主のお導きによつて今があるというメッセージに勇気を与えられ、大学で学んだ「祈つて考えて責任持つて」の精神を改めて心に留め、祈りつつ幼子と共に歩む決意を新たに致しました。

平先生の歓迎メッセージでは、新人の頃の失敗談などを交え明日起こるかもしれない具体的なお話を伺い、初めてのことにとまどい悩みがちな私たちに、力強いエールをいただきました。新任教諭の紹介で壇上上がった時には、養成校を卒業されたばかりの、私とは親子ほどの年齢差の先生方を眩しく感じながら、自分が新卒の頃を思い出し「子どもたちとこんなことをして遊びたい」「いつも笑顔で元気な保育者でありたい」という夢をもう一度温めることができました。

はじめの一步を踏んだばかりの私たちを、伝統あるキリスト教保育連盟神奈川部会に暖かく迎え入れていただき、感謝申し上げます。

## 役員会報告

書記 奈良昌人

### ◆神奈川部会総会

総会は四月十二日(火)午後四時より高座教会礼拝堂にて行われ、二〇一五年度事業報告ならびに決算が承認され、二〇一六年度活動計画案ならびに予算が承認されました。

◆役員会は四月六日(水)、四月二十八日(木)、五月二十六日(木)、六月二三日(木)に開催されました。主なことを報告いたします。

四月十二日(火)に開催された二〇一六年度総会議事録を承認しました。役員ならびに主任会担当者プロジェクトチーム担当者は変わりなく継続いたします。今年度は神奈川部会創立五十周年になります。一年後の二〇一七年度に記念行事を計画しており、今年度は準備を進めていきます。

### ◆新任歓迎会

四月十三日(水)野毛山キリストの教会礼拝堂にて行なわれました。礼拝では武田治子牧師(霞ヶ丘幼稚園園長)より説教をいただき、礼拝の後、平幸子先生(関東学院のびのびの園)から新任の皆さんへ歓迎と励ましのメッセージがありました。百二十人参加。

### ◆第一回講演会

六月八日(水)に野毛山キリストの教会礼拝堂にて、捜真女学院学院長 中島昭子先

生より「キリスト教教育」のテーマでお話を伺い、キリスト教保育の基礎と奥深さを示され、愛の心の教育について思いを深くしました。百五十人参加。

### ◆新任教師研修会

七月六日(水)、九月十四日(水)、一月二五日(水)に横浜英和幼稚園にて午後三時より開催。

### ◆夏期講習会

八月二三日(火)関東学院大学室の木キャンパスにて開催されます。礼拝と基調講演・小見のぞみ先生(聖和短期大学教授)・園長・設置者・主任研修会(※日程が変更になりました)

九月十九日(月)敬老の日、鶴沼めぐみルーター幼稚園にて、講師に掛札逸美先生(NPO法人 保育の安全研究・教育センター)心理学博士)をお招きして開催いたします。

### ◆第二回講演会

十一月九日(水)に野毛山キリストの教会礼拝堂にて、講師に村上哲朗先生(東洋英和女学院大学教授)をお迎えして「からだ、健康について」(仮題)のお話を伺います。

### ◆部会創立五十周年記念事業

記念式典を二〇一七年八月二二日(火)に夏期講習会と合わせて横浜迎賓館にて行います。また、記念の文集を作成したく、五十年の間の資料等(主に総会資料、部会だより)お持ちの方は部会役員にお知らせくださいますようお願い致します。

## 編集後記

8月も後半を向かえ、先生方の良い働きの中で暑い夏を過ごし、そして、2学期に向けた準備も進んでいることと思います。今回も執筆くださった先生方おひとりおひとりの暖かい思いの中で、保育に向き合うお姿が感じられる素敵な原稿をお寄せ頂きました。心より感謝いたします。



◇発行日 2016年8月23日

◇編集者 神奈川部会 広報担当  
宮の台幼稚園/佐口千春  
認定こども園 捜真幼稚園/黒坂綾子

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 百合丘めぐみ幼稚園